

部活動体験

夏休み中、2 日間設けた体験入部の他に、通常の練習にも多くの中学生に参加してもらい、その数は延べ 80 人以上になりました。これだけ多くの中学生に高島高校男子バスケットボール部に興味を持ってもらえたことをうれしく思います。ご参加頂いた中学生の皆様、見学にお越し下さった保護者の皆様、ありがとうございました。

中学生と交流する意義

この夏は部活動体験で多くの中学生に参加してもらった他、中学生を招いて合同練習も実施しました。

中学生と一緒に練習することは高校生にとっても学びが多く、大きな成長のチャンスになります。

まず、初対面で自分より年下の人と関わる際に自身がどう見られるかを意識して欲しいのです。特に体験入部の場合は、高島の部員に対して憧れや何かしらのポジティブなイメージを持っているからこそ参加しているはずです。部員にはそのイメージに合う「格好いいお兄さん」として見られて欲しいと伝えていますし、他者からの注目を意識することが大きなモチベーションになります。

練習が始まれば中学生に対して練習メニューを説明し、並び方や人数の調整をする声掛けをしなくては練習が成り立ちません。練習メニューの説明については可能な限り指導者が行うことなく、部員に任せるようにすることで人前で話しをすることに取り組んでもらいました。また、多くの人数が複数個所に分かれて練習を行う際には全体を見渡し人数調整をしたり、順番を待つ際にもできるだけ中学生を間に入れて高校生と練習が出来るように声をかけることを求めました。加えて、せっかく縁あって一緒にバスケットボールをする仲間たちと充実した時間を過ごすためにもグッドプレーや体を張ったハッスルに対して大いに盛り上げ、明るい雰囲気を作ることが必要です。そうした練習のムードを作り、皆が自然とハードワークする気持ちになれるような声掛けをすることも強調しました。

中には初対面の人に対して声をかけることに苦手意識がある部員もいるとは思いますが。そうした部員に対しても「体験入部に参加している中学生はたった 1 人で初めての場所に来て、年上の人たちの中にとび込んでいる。その勇気に比べたら、あなたたちが普段活動している高島高校での練習で中学生に対して声をかける勇氣など比べ物にならないくらい小さなものだよ。」といった話もしました。

自分のプレーもしながら初対面の中学生に気を配り、声をかけることは決して簡単ではないはずです。だからこそ、高校生にとって学びの多い貴重な機会となるのです。「初対面の中学生といい練習が作れるような気配りや声掛けができるチームなら、自分たちだけで練習したときはもっと楽しくて、もっとレベルアップにつながる最高の練習ができるよ。」と部員には伝えています。

結局は日々の取り組みが勝負

この夏、多くの中学生と関わる中で積極的に声をかけリーダーシップを発揮することを求めましたが、その時だけ、突然出来るようになるものではありません。バスケットボールの試合同様、日々取り組んでいることが大切な時でもそのまま自然と発揮される、それだけのことです。

体験入部中、中学生に対して声をかけて教えてあげることができた選手は、日々の練習でもチームメイトにアドバイスを送っているものです。また、中学生のグッドプレーに対して大きな声で盛り上げた選手は普段の練習でも大きな声でチームを明るく引っ張っています。そうした選手たちは中学生の目にも格好良く映ったことでしょう。

多くの中学生が部活動に来てくれることは部員のモチベーションになると同時に、大変貴重な成長の場となります。そうした意味でも部活動体験にご参加いただいた皆様、改めてありがとうございました。